

# 夏越の祓・輪くぐり神事 期間限定御朱印



初穂料 1000円 (直接書き・書置き)

日にち：6月22日(土)～7月1日(月)

時間：9時から15時(※30日のみ20時半まで)

※直接書きは基本的に受付日から1週間後の「後日お渡し」になります。条件に合う方のみ、「当日券」を対応します。

※当日券については次のページにてご確認ください

※書置きはその日にご用意した枚数が全て出た場合、その日の受付は終了の形を取る場合がございます

## ◆6月30日にご参拝予定の皆様◆

祭礼当日は早朝より神社境内では茅の輪の製作、並びに17時から境内にて神事がございます。

神社境内の駐車場は終日使用不可の為、ご注意ください。

# 夏越の祓・輪くぐり神事 期間限定御朱印

	直接書き		書置き
	当日渡し	後日渡し	
6月22日 (土)	×	○	○
6月23日 (日)	×	○	○
6月24日 (月)	×	○	○
6月25日 (火)	×	○	○
6月26日 (水)	×	○	○
6月27日 (木)	×	○	○
6月28日 (金)	×	○	○
6月29日 (土)	×	○	○
6月30日 (日)	○ ※条件あり	○	○
7月1日 (月)	×	○	○

## ◆6月30日 (日) 直接書きについて◆

受付時間：14時から16時の2時間のみ

条件：当日17時半から21時の間に行われる「祓戸」でのご祈禱をお受けになれる方のみ

※祓戸の初穂料はお一人1500円 (茅の輪のお守り付き)

補足：予想以上の方の受付があった場合は、当日ではなく「7月1日」に御朱印帳のお戻しをお願いする可能性がございます

# 夏越の祓・輪くぐり神事

## 輪くぐり神事の由来

菅生神社のご祭神、須佐之男命は古い伝えによりますと、須佐之男命が旅の途中で蘇民将来と巨旦将来という兄弟に宿を求められました。裕福な弟の巨旦将来は宿を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は大変貧乏でしたけれども厚くもてなしました。数年後須佐之男命は旅の帰る途中、蘇民将来にお礼をしたいと思い訪れ、「もし天下に悪疫が流行した時はちかやを以って輪を作り、これを腰に着ければ免れるであろう」と教えられ、蘇民一家はその年に流行した悪疫から免れました。

この故事に基づき、茅の輪を腰に着ければ災厄を免れるという信仰が生まれました。江戸時代には輪はやがて大きくなり、現在のように境内に輪を設ける形になりました。茅の輪をくぐることにより病気や災難から逃れられるという信仰が現在も伝わっています

## 申込希望の方

神社社務所又は神社係さんより形代の入った封筒をお渡しします。  
封筒に初穂料を添えてお申込下さい。 初穂料 五百円(お一人)

人形代(人の形に切った紙)は自身の身代わりです。人形代に半年のツミ・ケガレを下記の手順に移します



①人形代に氏名・年齢を記入します



②人形代を自身の頭・胸・腕もしくは身体不調の箇所を撫でます



③息を三回吹きかけます



④車の形代はナンバーを記入します

## 令和六年六月三十日(日)の流れ



17時より境内にて神事が執り行われます。どなたも参列可能です。



茅の輪は6月30日より設置します  
17時よりご自由にお廻り下さい  
※今年は7月3日まで茅の輪を設けます

○茅の輪をくぐる時の唱え言葉  
水無月の 夏越の祓する人は  
千歳の命 延ぶと云うなり

○廻り方  
左右左と3回八の字に廻ります

# 以下の内容を必ずお読み下さい

## お車でお越しの方へ

※路上駐車はされないようお願い致します

※神社裏手のマンションの駐車場には絶対に

止められないようお願い致します（黄色枠部分）



## お知らせ

※新型コロナ対策の為、職員等適宜マスクを着用した  
まま対応させていただきます

※6月30日は神事の準備等で朝から終日、境内の  
駐車場は使用不可の為、ご注意下さいませ